

上越市第7次総合計画の策定に係る会派意見集約表

別紙1 第7次総合計画の全体構成について

No.	意見	会派名
1	序論について、市民の声もちろん大事ではあるが、地方創生の取り組みについて「街づくり」のコンサルタント(但し、全く土地勘のないような都会派のような方ではなく、実際に地方に実績を出してきた仕掛け人)といった専門家の声など、有識者から上越の課題や問題点の改善を含めたこれからの街づくりについて何う必要性はないのだろうか。	久比岐野
2	第7次総合計画は2023年度を初年度とし、2030年度を最終年度とする8年計画である。8年後の上越市のあり方に向けて計画を作成すべきで、2040年の上越市の姿(未来予測)からバックキャストして2030年までの計画を作るという考え方が果たして市民、とりわけ高齢者に理解されるかどうか疑問である。もし、この考え方で計画を作成するのであれば、基本理念として盛り込むのではなく、「序論」もしくは「はじめに」などの章で計画作成にあたっての考え方として説明するほうが市民に受け入れられやすいのではないかと考える。	久比岐野
3	第6次総と同様に序論から始まり基本構想・基本計画そして資料編に進むのはセオリーであり何の問題もない。しかし第3章では国が進める「地方創生に向けたSDGsの推進」を正面から取り組み、これに基づく「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現の為2030年を年限とする17の国際目標を掲げて進むべきである。	久比岐野
4	冒頭に市長のビジョンを明確に示すべきである。今までの市政の何を引継ぎ何を換えようとしているのか。どうしようとしているのか。市民になにを協力して欲しいのか。	久比岐野
5	上記ビジョンにもとづいて、どういう戦略を重点としてそれを達成しようとしているのか、市民に分かりやすく明確に訴えて欲しい。	久比岐野
6	「生きる力を備えた・・・」の表現は本当にそれでよいのか。市長のビジョンと最も合った表現なのか。ほかにないのか。また、「上越市ならではの・・・」も、もっと良い表現はないのか。	久比岐野
7	上越市の大問題である、人口減少問題にたいする市長の考え、戦略が見えない。	久比岐野
8	第6次総合計画の評価を明確に記載すべきであろう。現計画の現状把握をきちんとするところから、次の計画が進むと思う。	久比岐野
9	【別紙1・2・3について】 全体構成については、基本理念を別紙2に、また、基本目標と政策推進の考え方を別紙3に、更に個別目標を達成するための施策と具体的取り組み方針を別紙5で明記している。計画としては解るが抽象的で、ただ単に市政の業務を体系的に整理したように感じる。 これは、全体構成の序論の策定の背景である、社会の潮流、上越市の現状と課題、将来の推計人口などの捉え方が甘いのではないか。現状を捉えていても現象を軽く見ていないのか。 広域合併による一体感の醸成、核家族化の進展、中山間地区の急激な人口減少、広大な市域が抱える課題等を考えると、行政機能・権限の委譲、分散、あるいはコンパクトなまちの推進等市政のあり様についても検討され方向性を示してはどうか。	久比岐野

上越市第7次総合計画の策定に係る会派意見集約表

別紙1 第7次総合計画の全体構成について

No.	意見	会派名
10	基本構想の基本目標は5つの項目に分類されているが、農林水産、都市整備等がどこに分類されているか分かりにくいので、分類項目を増やす必要がある。	政新クラブ
11	序論(市民の意見について) 市民意見交換会や学生ワークショップの意見がどのように反映されているのか分からない。せっかくの意見であり、分かるようにしたほうがよいのでは。(単に意見を聞いただけで終わらせないで欲しい)	みらい
12	市民に対してこの総合計画を知ってもらうための方法は。開催しますから来てください、ではなく行政が28自治区全ての地域に出向き、しっかり説明して市民から理解してもらうべきではないか。	みらい
13	多くの市民からパブコメを出してもらうための方策は考えているか。また、パブコメの意見には真摯に向き合ってほしい。	みらい
14	全体的に感じる点について 中川市長の思いや熱意が伝わる総合計画になっていないように感じる。選挙戦での自身のマニフェストを前面に出したほうがよい。特に子育て日本一にするための目標、ビジョンを示すべき。	みらい
15	6次総合計画では、本編で「計画の特徴」という欄があった。この度の7次総合計画はももとの組み立て方が違うという説明が行政からあったが、別紙5の施策の柱まで見ていくと、今回の総合計画の特徴(どこに重点をおいて作成したか)が見えづらくなってしまっている。「計画の特徴」は本編では入れてほしいがその予定はあるか？	創風
16	「土地利用構想」は、基本理念や将来都市像に基づいた基本目標を実現するために土地利用の面で具体化すべきものである。ところが、基本構想では、基本目標と土地利用構想が同列、同順位になっているように感じられる。これでは、土地利用のために基本目標が左右されかねない。あくまでも基本目標実現のための土地利用であることを明確にするために、位置づけを見直してはどうか。	日本共産党議員団
17	基本理念や基本目標に、「生きる力」「支え合い、生き生きと暮らせる」「誰もが活躍」といったように、市民個人個人の取組や動きが必要であるかのような表現が随所に見られる。市民が自発的にいろいろな取組をすることは大事なことであり、行政はそれを側面から支援することも重要な責務であるが、行政の立場で市民の取組に過度に期待したり市民に責任を転嫁するようなことがあってはならない。総合計画は、行政による行政サービスの内容を計画するものである以上、市民の動きを規定するような表現は慎むべきである。	日本共産党議員団

上越市第7次総合計画の策定に係る会派意見集約表

別紙1 第7次総合計画の全体構成について

No.	意見	会派名
18	<p>以下の視点に立ち総合計画を策定されたし。</p> <p>1. 総合計画の名称を考えるべきだ。第7次というナンバー総合計画では市民に親しみ感は生まれない。「新Jプラン」のイメージを出す。 Ex「みどりの生活快適都市・上越」「躍動するヒューマン都市・上越」「北信越ゲートウェイ都市・上越」「海・山・里ゲートウェイ都市・上越」など</p> <p>2. 政策推進の考え方としては、「子育てするなら上越市」のような目指すビジョン、特徴を表す都市イメージを打ち出すこと。再び「SDGs地球環境都市・上越」、「新関東圏奥座敷・上越」、子ども年金で「人口減に打ち勝つ・上越」など</p> <p>3. 第6次総合計画との違いがわかる計画にすること。守りから攻めの市政へ転換イメージを出す。第7次での具体的なチャレンジ政策を明記し、今後の市政の方向性を示す。リーダーシップをとる市長のメッセージを明確に出るようにすること。</p> <p>4. 大合併の弊害を是正するためのガバナンス体制を整えること。 ブロック長に副市長を充てるなど副市長制を生かしたガバナンス体制の構築 Ex「一市二制度」の導入＝「旧上越市ブロック・頸北ブロック・東頸ブロック・中郷・名立」</p> <p>5. 各種推計値を計画期間に合わせその目標値を明記すること。</p> <p>① 人口推計値 ② 特殊出生率の推定目標値 ③ 高齢単身者及び未婚単身者の推計値 ④ 上越市のGDP値 ⑤ SDGs値の目標値(CO2の抑制数値目標など) ⑥ 空き家推計値 ⑦ 空き地推計値 ⑧ 耕作放棄地推計値 ⑨ 上越市食料・農業・農村基本条例における食料自給率の目標値 ⑩ 上越市職員定数条例の目標値 ⑪ 小中学校、公私立の保育園、幼稚園の推移</p> <p>6. まちづくりに係る整備構想の明確化</p> <p>① 上沼道早期完成及び周辺道路整備 ② 都市計画道路の見直し ・見込みのない路線の廃止 ・新幹線北口南高田線の新設 ・新幹線東城線整備促進 ・黒井藤野新田線沿線整備 ③ 調整区域(未利用地畑地など)など土地利用用途の見直し ④ 農村における未利用畑等の利活用のための規制緩和 ⑤ 「かがやき号の停車」及び新幹線周辺まちづくりの発展構想 ⑥ 直江津駅前再開発構想の位置づけの明確化 ⑦ 通年観光に資する「高田城枳形門及び時の鐘塔」の復元 ⑧ 通年観光に資する春日山城跡の公有地化部分に「謙信公の森を整備」</p> <p>7. 地方からの新しい資本主義システムの構築 国家戦略特区制度を活用した「地域経営会社(コミュニティカンパニー)」の創設。ローカルマネジメントにより持続可能な、新しい資本主義という理念に基づく農山村の生き残る社会システムを構築する。</p> <p>8. 保倉川放水路等計画の推進に合わせた土地利用の高度化</p> <p>① 保倉川放水路早期整備 ② 掘削度を活用してのSDGs企業団地整備(無償貸与化) ③ 掘削度を活用しての直江津船見公園拡張整備及び海洋レジャー基地化 ④ 儀明川ダム建設の促進及び街中流雪溝改善整備(流雪溝用水確保)</p> <p>9. 自前のエネルギー都市へ躍進</p> <p>① 火力発電所の増設。東北電力の1号系列に次ぎ2号系列の増設促進 ② 再生可能なエネルギー政策の推進(地方からのカーボンゼロ社会の実現) ・太陽光発電の普及(公設・私設) ・水力・バイオマス(木質・食料残渣)発電の普及 ・メタンハイドレートへの挑戦 ③ 発電所温熱利用の大規模な野菜・植物工場の新設</p> <p style="text-align: right;">(次項に続く)</p>	無所属 宮越議員

上越市第7次総合計画の策定に係る会派意見集約表

別紙1 第7次総合計画の全体構成について

No.	意見	会派名
18	<p>10. 空き校舎の利活用を明記</p> <p>① 板倉宮島小及び東頸小を市営住宅化</p> <p>② 板倉山辺小をITサテライトオフィス、コワーキングオフィスに利活用</p> <p>③ 空き校舎の農都市学校化(都会の児童生徒を受け入れる)</p> <p>④ 空き校舎末広小に市立特別支援学校を新設。</p> <p>11. 安心なまちづくりサポート体制の強化</p> <p>① 「ナースコールドタウン構想」の実現(自宅の病院ベットルーム化)</p> <p>② 山麓線寺町界隈へ消防署分遣所を新設。</p> <p>③ 雪害対策としての個人住宅への支援強化</p> <p>④ 高田市街地内への加温式消雪パイプの拡充</p> <p>⑤ 雁木通りの雪害対策強化(雪に強い雁木整備)</p> <p>⑥ 福祉施設への入居者待機ゼロ化</p> <p>⑦ 交通弱者へのサポート体制強化(100円バスの運行)</p> <p>⑧ 買い物難民の解消対策強化(買い物代行事業の整備)</p> <p>12. 公設温浴施設などの維持管理運営期間の明確化</p> <p>① 公の施設の計画期間での整備指針の明確化</p> <p>② 温浴施設については地域ニーズを尊重し一定の期間を存続</p> <p>③ 政策的に設立した施設の維持管理体制の方針明記</p> <p>④ 公設レジャー等基地の見直し、活用指針の明確化</p> <p>13. 子育て環境の整備—子育てするなら上越市—</p> <p>① 市内中学校単位に三世代交流プラザ(南三プラザ)を整備</p> <p>② 子ども図書館の整備(三世代交流プラザと併設)</p> <p>③ 子ども病院の整備</p> <p>④ ジェンダーギャップ解消の育休取得環境の促進強化</p> <p>14. 安・近・短行政の徹底化</p> <p>① 安(コスト)い、行政コストを追求⇒要員数を含めた行政コストの適正化</p> <p>② 近(身近)い、市民への行政サービスが身近で見守る態勢強化。ガバナンス改革</p> <p>③ 短(スピード)い、スピード感のある対応力の強化。すぐやる行政の確立</p> <p>15. 総合計画実行財源の明確化</p>	<p>無所属 宮越議員</p>

上越市第7次総合計画の策定に係る会派意見集約表

別紙2 基本理念と将来都市像の関係性の再整理について

No.	意見	会派名
1	<p>基本理念、将来都市像については特に異論はないものの、(条件や環境は別として)同じぐらいの人口、面積の各地方自治体の基本理念を見ても同じような感じである。基本理念はこれをベースだが、「我が街の理念はこれだ！」と市民誰もが口にできるようなインパクトのある語呂の良い文言を創る予定はあるか？(例えば、イメージをしっかりと伝えて、中高生限定又は市民誰でも参加できる一般公募など)ある意味、副題がそれとも取れるが、「生きる力」の文言が「上越市ならではの快適で幸せな暮らし」に対して何かネガティブなイメージになる。総務常任委員会での説明で言うことは非常に理解できたのだが、ポジティブになれる言葉がもう少し探れないものか。将来都市像がこれに代わるとするなら、もう少しどこにもない(要は他の都市でも使われていない)上越らしさこそ、言葉で表現しても良いような。</p>	久比岐野
2	<p>別紙1の全体構成でふれたとおり、2040年を想定した基本理念ではなく、2030年のあるべき姿を基本理念とすべきと考える。 「2040年ころ、どうなっていたいか」ではなく「2030年ころどうなっていたいか」を念頭に政策、施策を議論すべきである。</p>	久比岐野
3	<p>2040年の未来とはどのような世界なのか。 人口減少等の変化が進む成熟社会の中で、「上越市ならではの快適な幸せな暮らし」とは何か 新型コロナウイルス感染症に関係が深いと考えられる科学技術のトピック。 A: 超軽量感染症センサー A4: 遠隔医療 A6: 共有できる身体 B2: 教育のデジタル化 B9: 共有できる身体 B10: 拡張現実スポーツ C1: 早期診断 C6: 体内監視デバイス</p>	久比岐野
4	<p>2030年暮らしやすく、希望あふれるまち SDGs達成年限 人口17万2千人 別紙3に続く</p>	久比岐野
5	<p>基本理念、将来都市像も大事だが、重要なのは、そこに市長の目指す市の姿を示し、市長のビジョンと戦略を明確に繋げて、市長の考えを市民に訴え、説得し、協力を仰ぐことではないか。人口減少対策についても同様で、この軸を市民に示して欲しい。</p>	久比岐野
6	<p>基本理念について 「上越ならではの」「当市ならではの」の快適で幸せな暮らしという基本理念を目指す計画であるが、上越市ならではの個性や特徴が打ち出されていないように感じる。もう少し詳細にする必要がある。他地域や他の自治体には真似のできない「強み」や「持ち味」を改めて見直し、明らかにし、(他地域との)差別化を図ることにより将来都市像がより説得力のあるものになると思う。「20年後30年後、自分たちのまちはこうなっているんだ」と、一人でも多くの市民の皆さんが前向きに共有できる内容が示されることを期待する。</p>	みらい
7	<p>委員会でも論点となったが、2040年について記した文章(黒文字)とタイトル(上越ならではの快適で幸せな暮らし)があまり連動していないように思う。また、予測できない社会情勢を2040年まで記載するのはどうかという考えもある。 今回は、バックキャストिंगの手法で計画策定をするということが、市民にも理解してもらえるように、文章中に「バックキャストिंगの考え方で取り組んでいく」というような文言や、↓に注釈(なので とか)をつけてはどうか？</p>	創風
8	<p>バックキャストिंगの手法を取り入れたことで、2040年への想いを打ち出したと思われるが、18年後の姿を何の必然性もなく打ち出すのは唐突である。なぜ2040年なのかを理論的に説明するか、あるいはあくまでも総合計画の最終年度である2030年の姿を見通した構想とすべきである。</p>	日本共産党議員団

上越市第7次総合計画の策定に係る会派意見集約表

別紙3 基本目標と政策推進の考え方について

No.	意見	会派名
1	持続可能な行財政基盤の構築とあるが、具体的にどんなイメージ、何を示しているのだろうか？説明からは行政サービスの向上と人口減少社会(少子高齢化)でどう財政を維持していくのかの2点のみがポイントと解釈して良いのか？	久比岐野
2	「地方に仕事を作る、自らの力で稼ぐ地域を作り出す」というような目標の打ち出し方もあると思うがどの辺にそれは入るのだろうか？「人の流れを作る」といった、都会から地方へ人の流れを生み出すという考え方はどこに入るのだろうか？	久比岐野
3	協働・共創の取り組みの推進とあるが具体的な取り組みイメージはこれから出る内容で確認となるのか。	久比岐野
4	次代を担うひとを育むまちななかで、全ての世代が学びという点について具体的なイメージは？	久比岐野
5	上越市でも、今迄の常識では認識できないほどのスピードで人口減少と少子高齢化が進行し、現役世代の人口が急減する大きな課題に直面する中、社会、経済、環境を維持し、次の時代に引き継いでいく為、教育や保険、社会保障、雇用機会を含む幅広い社会的ニーズから、インフラ、消費、産業などの経済成長、そして気候変動や環境保護等様々な課題に取り組むSDGsと、本計画で位置付けた施策との関係性を明確にしながら、持続可能な成長戦略につながる施策を実行しなくてはならないのではないか。	久比岐野
6	国は第2期「総合戦略」改訂・新型コロナ感染症・人口減少・地域におけるSociety5.0の推進に対して自治体での対応できないところの支援、内閣府地方創生推進室では地方創生SDGsの実現などの持続可能なまちづくりを進めると国はしている。環境・経済・社会「誰一人取り残さない」2030年を年限とする17の国際目標(その下に169のターゲット、231の指標が決められている)。三側面を統合する施策の推進を図る事が重要。SDGs未来都市選定には昨年度までの4年間で124都市あり、第7次総合計画は、今、国が平成30年度から推し進めている第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」地方創生SDGs未来都市も研究して、具体的に市民にも分かりやすい数値目標を掲げ、2年か3年に一度の達成チェック度も公表すべきでないのか。	久比岐野
7	2030年に向けて、価値感が変わる:地域には新しい仕事がたくさん必要となる！この3年で、この動きに乗り、新しい仕事を生み出させる地域は持続可能になり、それができない地域は持続できない。数値目標を立てて2年か3年ごとにその数値をチェックする。SDGs、脱炭素を地方創生の推進力にしなければいけない。	久比岐野
8	別紙2で市長の目指す市の姿を示し、市長のビジョンと戦略を明確に繋げて、市長の考えを市民に伝え、それを、ここで基本目標、政策推進の考え方に繋げて、軸を明快にすべきであろう。人口減少対策についても同様で、この軸を市民に示して欲しい。今の状態は軸がはっきりしなくて、いろいろ良いことがちりばめられてはいるが、最終目標とそこにいたる戦略、政策への道がスッキリしない。	久比岐野
9	基本目標「希望あふれるまち」の中に、上越市はシンボリックな印象が薄いと思う。中でも上越市と言ったら、これだ!!というシンボルが見えていない。それを明確にして各地域の魅力や伝統文化を磨き上げて行くべきと考える。桜や、蓮では弱い。	みらい

上越市第7次総合計画の策定に係る会派意見集約表

別紙3 基本目標と政策推進の考え方について

No.	意見	会派名
10	基本目標(誰もが活躍できるまち) …様々な主体による協働・共創の取り組みを推進し、とあるが、様々な主体とは。また協働・共創の取り組みとは。漠然としすぎていてピンとこない。もう少しわかりやすい言葉でどのように連携を進めるのか明確にしたほうがよいのでは。	みらい
11	右側の3つの柱の「SDGsの推進」の文中に脱炭素化の実現に向けた取り組みの表記をしてほしい。当市には「脱炭素社会プロジェクト」があるので、特に重要であると考えます。	創風
12	2030年までにCO2排出量を50%削減しなければ、その後の地球は今のままで持続し得ず、上越市も人が住めない土地になりかねないことが指摘されている。そのことを考えると、総合計画の基本目標には、「CO2排出を完全にゼロにするまち」という項目が提示されるべきである。	日本共産党議員団
13	基本目標の「支え合い、生き生きと暮らせるまち」の説明では、「暮らしの安心感を高め(中略)生きがいを持って暮らすことができるまちづくり」は「地域社会での支え合いや助け合い」によるものとされており、行政ではなく地域の市民の責任であるかのような表現になっている。行政の責任であることを明記した表現に変えるべきである。	日本共産党議員団
14	基本目標に「誰もが活躍できるまち」という項目がある。確かにだれもが活躍できることは大切ではある。しかし、市民の中には、いろいろな事情で活躍したくてもできない人が少なくない。そうした人への配慮が感じられない。	日本共産党議員団
15	人口減少対策では、「人口現象の緩和」という消極的な表現になっている。果たしてこれでいいのか。人口減少をやむを負えないものとして容認する姿勢では、「まちづくり」ではなく「まちじまい」になりかねない。「人口減少に歯止めをかけ、増加に転じさせる」ことを明確に見据えることが重要である。	日本共産党議員団
16	「デジタル技術の活用促進」とあり、中山間地を含めてデジタル技術の活用で暮らしやすいまちをめざすことは頼もしいが、実際にはデジタル技術の活用には膨大なコストがかかり、人口の希薄な地域では、少なくとも事業者は採算が取れないことから手を出せず、実質的に山間地での活用は不可能であるとの指摘がある。そうしたことをどれだけ考慮に入れているのか。可能であれば、どのような根拠があるのかを示すべきである。	日本共産党議員団

上越市第7次総合計画の策定に係る会派意見集約表

別紙4 土地利用構想について

① 土地利用の現状と課題

No.	意見	会派名
1	例えば土地利用で考えると、歯抜けのようになった街の中にある空き家問題についても含める必要があるのではないかと、もちろん、新築を好む日本の文化背景もあるが、しっかりと古いものを大切にリノベーションしてそこにしっかりと人々の繋がりを育むようなコミュニティの場、居住、あるいは仕事といったものを入れ込みながら本気で市内の空き家対策を含めた街づくりを考えること、それも重要な土地利用の課題であると考えているがいかがか。	久比岐野
2	現状と課題認識は良いと思うが、問題は課題克服への途がはっきりしない。市長のビジョン・戦略と繋げる形で、ここで克服への途への方向性、基本方針を展開して欲しい。それが、面、点、線の議論以上に重要と思う。	久比岐野
3	市街化調整区域において、農地からの転用に対する規制緩和や下水道整備未区間における下水道整備を求める声が市民からあるが、十分、市民に寄り添った中で、柔軟な姿勢を盛り込んでもらいたい。	みらい
4	田園地域では農業の生産性の向上、と書かれているが、担い手不足も深刻化している。担い手不足対策を行いながら農業の生産性向上とすべき。	みらい
5	「土地利用において対応すべき主な課題と今後の考え方」の部分で主な課題と今後の考え方が混同しているようにとれるので、特に今後の考え方(行政としてはどう考えて取り組んでいくか)を強調して表記した方がよいのではないかと。 特に地域コミュニティの活性化の部分では、市内各地区の中心的なエリアにおいて整備・確保することは2040年(例えば区や地域の集約などが進む可能性もなきにしもあらずと想定すると土地利用の考え方も変化していく)を考えると6次総合計画とほぼ同じ文言でいいのか疑問を感じる。そこはどのように考えているか。	創風
6	「住む場所にかかわらず、一定の生活の質が保たれ」ことは重要であり、大前提である。しかし、一方で、『面・点・線』の土地利用と機能整備を一層推進とあり、市内の各地を性質別に区分けしようとしている。これで「一定の生活の質」が保てるのか。特に、「生活拠点」とされる旧町村の総合事務所付近の集落以外の集落での生活の質の担保をどのように行っていくのかが明確でない。	日本共産党議員団
7	当市のイメージとして、以前から言われている「謙信公フィールドミュージアム」と捉え、『義の心』を懐に納めながらも、中世から繋がる【三城物語】として春日山城(謙信公)、福島城跡地(直江津港周辺)、そして高田城址公園(松平忠輝公・榊原藩)への内外にPRすべく、日本遺産登録が出来ないか	公明党

② 第7次総合計画における土地利用構想の方向性

No.	意見	会派名
1	現状と課題認識は良いと思うが、問題は課題克服への途がはっきりしない。市長のビジョン・戦略と繋げる形で、ここで克服への途への方向性、基本方針を展開して欲しい。それが、面、点、線の議論以上に重要と思う。小さな拠点の活性化について、なんらかの方向性を出せないのでしょうか。	久比岐野

上越市第7次総合計画の策定に係る会派意見集約表

別紙4 土地利用構想について

③ 土地利用の基本方針

No.	意見	会派名
1	現状と課題認識は良いと思うが、問題は課題克服への途がはっきりしない。市長のビジョン・戦略と繋げる形で、ここで克服への途への方向性、基本方針を展開して欲しい。それが、面、点、線の議論以上に重要と思う。特に持続的なネットワーク構築・維持は重要であり、その基本方針の内容を述べて欲しい。	久比岐野
2	<p>P2にも見られるように、面・点・線によるまちの構造イメージは6次と大きく変化しているところがない。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>しかし、市長は議会の答弁や様々な会合や記者会見で「ITやICTの集積を図る。そのための努力をしていく」といった内容を常に発信している。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>そこで、村上氏(デジタル庁統括官)が、ある程度の距離感(数百メートル)で、スタートアップを含めたITやICT企業を集積することが成功への道と述べるように、「IT・ICT拠点地区」(上越版シリコンバレー)をつくる必要があると考える。</p>	久比岐野
3	○の3つの説明文が6次総合計画と文言が変わってないのはなぜか。特に、「点」の説明文のところの「集積」の言葉については、6次総合計画策定の時にも市民から「人を中心に集めるのか？取り残された人々はどうなるのか？」といった不安の声もあったと聞く。誤解を招かないような文言には変えられないのか。	創風

④ めりはりのある土地利用(面)

No.	意見	会派名
1	人口減少・高齢化の進む周辺部の課題克服への途が見えない。	久比岐野
2	市街地(土地利用の考え方)住居系の用地として宅地の供給を誘導、市民が安心して快適に生活できる住環境を形成するための基盤整備とあるが、団地の形成のことか。一方で空き家が増える古い団地の有効活用については同時に考えていく必要があるのではないか。	みらい

上越市第7次総合計画の策定に係る会派意見集約表

別紙4 土地利用構想について

⑤ 暮らしを支える拠点の構築(点)

No.	頁	意見	会派名
1	4	地域拠点、生活拠点の活性化の方向性が見えない。	久比岐野
2	4	拠点整備の考え方 プラスして ビジネス拠点 上越妙高駅周辺「高速交通が連結し、首都圏や関西圏からのアクセスを活かし、ビジネスの交流拠点としての優位性を活かし、その機能の集積を促進します」	久比岐野
3	4	上越妙高駅周辺は、ゲートウェイではなく、都市拠点に。 せつかく開通した新幹線と駅を最大限に有効活用するために駅周辺は都市機能を集中させるべきである。センター病院までの都市計画道路を新設し、その周辺も含めて開発エリアとすべきである。	政新クラブ
4	4	面・点・線によるまちの構造のイメージについて、前村山市政時と同様、上越妙高駅周辺はゲートウェイとの位置づけのままである。すでに、上越妙高駅周辺は、住宅団地の増加に伴い一般住宅も増加しているうえ、企業誘致も推進している。第7次総合計画の2030年の将来都市像、2040年のまちづくりに込める想い(基本理念)からして、新たに上越妙高駅周辺を都市拠点に変更し、新都心として開発していくことが重要である。	政新クラブ
5	4, 5	拠点整備の考え方についての文言→6次総合計画の時にも「(総合事務所周辺)」という文言はあったが、例えば民間のサービス施設などはそうとも限らないし、区によっては主要な道路脇に点在している地域もあると考える。ここは明記する必要があるか。	創風
6	5	各ゲートウェイの考え方(寺インターチェンジ周辺)について 上越総合運動公園を中心とした交流機能など必要な機能の誘導を図る、とあるが、「必要な機能の誘導」とはどのような考えなのか。	みらい
7		提案 上越妙高駅 ゲートウェイ→IT・ICT拠点(エリア)	久比岐野

⑥ 人や物の移動を支える交通ネットワークの構築(線)

No.	意見	会派名
1	特に、拠点間ネットワーク、地域ネットワークの持続は重要であり、その基本的な方針・内容を述べて欲しい。	久比岐野
2	ここは文章のみの記載であるが、市民にもわかりやすく興味関心を持ってもらう工夫が必要ではないか。6次総合計画(P106)掲載の「拠点間ネットワーク・地区内ネットワーク」のイメージ図はとてわかりやすいが、ここに入れてはどうか。それとも本編で入れるのか。	創風

上越市第7次総合計画の策定に係る会派意見集約表

別紙5 基本目標別の政策・施策体系について

No.	頁	意見	会派名
1	1	基本目標の設定は取り組み政策や施策、柱が明確である点は良いが、複数の政策、施策に対し、8年間に渡る実施について重要度を考慮し、優先順位をつけて実施していくのか。また、それぞれの柱をどのように連携し施策としながら、更に政策、最終的に基本目標に達成させるのか。	みらい
2	1	「活力と魅力あふれるまち」の「林水産業の振興」を「林業の振興」「水産業の振興」に分けて欲しい。特に、林業の振興に関しては今後森林整備や利活用の部分でより力を入れなければならないと考えるため。	創風
3	1	ここは6次総合計画から継続していく政策に新たな政策に関する事業の柱を付け加えていった一覧と考えるが、それであれば現在進めていこうとしている公約プロジェクトがこの部分に関連するのかわかるようにしてはどうか。ただ、総合計画の目的から適当でないという場合は逆に、今後プロジェクトがこの総合計画のどの部分と合致して取り組んでいるのかをプロジェクト進捗説明の際などに示してほしい。	創風
4	1	6次総合計画策定時とは社会情勢なども変化しているため、あらたな課題も出てきていることは理解できるが、特に7次総合計画の中で力を入れていく項目がわかりにくい。例えば印をつけるなど、よりわかりやすく表記をしてはどうか。	創風
5	1	メイドイン上越の取り組みは、当市の工業、産業の発展と人材育成、技術の伝承などに寄与してきたものと考えているが、このメイドイン上越の取り組みに関しては、全て地元企業の認知度向上欄に入ってしまうのか。	創風
6	2	2.地域医療体制の充実の中で、項目として感染症対策について(コロナ感染症がいつまで続くのかわからないし、またいつ何時の新たなウィルスに対応するためにも)うたう必要はないだろうか。	久比岐野
7	4	1.ゴミの減量とリサイクルの推進とあるが、日本海側に面した上越市として、海岸部のゴミのポイ捨てなどに関して、海への環境破壊等に関する取組の方向性は加えないのだろうか。	久比岐野
8	5	3若者が活躍できる環境づくりの中に、生活支援の充実がある。この主な取組の方向性として、大学、専門学校等への進学・通学の支援がある。これについては、8ページの2教育環境の充実に入れるべきではないのか？社会に出る前の相談支援とした方がしっくりくるような気がするがどうか。	久比岐野
9	5	2.多様な市民活動の促進において、1.市民活動の支援と2.市民参画と協働・連携の推進と分かれているのだが、官民がうまく連携するために、市民活動やボランティア活動の支援の充実が図られてこそ、2.市民参画と協働・連携の推進ができると考える。この辺を今までの事業の延長と考えるのではなく、しっかりとした部門としてきちんと体系立てた検討が必要ではないか。	久比岐野

上越市第7次総合計画の策定に係る会派意見集約表

別紙5 基本目標別の政策・施策体系について

No.	頁	意見	会派名
10	5	5ページ2の男女共同参画の推進の中に、3相談支援体制の充実とあるが、8ページ1.母子健康の充実と3.子どもの育ち支援の充実については、非常に重なる部分があると考えられる。健やかな子どもの成長はやはり健全な両親のもと、また家族形成の在り方も影響すると考えられる。産前産後ヘルパーの派遣の支援という派遣でなくても、家族相談というような父子・母子などもっと身近にコミュニケーション(相談や支援)できる環境の充実をどう作り出せるかが、配偶者のDVや子ども虐待の未然防止や早期発見・早期対応に取り組めると考え、切り離さずに考えるべきと思うが、いかがか。また、2ページにある3.複合的な課題を抱える世帯への支援にある1.相談支援体制の強化とはどう絡んでくるだろうか。	久比岐野
11	8	障害の特性に合わせた多様な学びの場の確保／不登校児童生徒への適応指導教育の支援とあるが、集団学習ができない子どもたちをただそこに戻すような考え方ではなく、多様性のある子どもたちに対する教育の選択肢を増やすような施策を打ち出せないものか。どちらにしてもこの文言の方向性がとても気になる。	久比岐野
12	8	学力向上の推進について、この2つの主な取組の方向性についての主語はどこになるのか？2つ目は生徒たち、2つ目は学校関係者(先生方)なのか？GIGAスクール構想の一つの目的としては、個別に最適化された教育の実現であり、子どもたちの日々のデータログから導き出す学び型の収集もあると考えるがそこについてはどう含まれているのか？また、主体的・対話的で深い学び「アクティブラーニング」の視点についても強く盛り込んで欲しいと考えるが如何か？施策として全体に関わるという考え方なのか？まだまだ日本の教育にとって弱い部分でもあるので上越市として先進的に取り組む意味で具体的な方向性を示した方が良いのではないか。	久比岐野
13	全体	各施策の柱に応じた「主な取組の方向性」で示されている施策は、すでに行っていることやとりあえずできそうなことを羅列しているように感じられる。基本目標の実現のためにうちだす新機軸たる施策を思い切って打ち出すべきである。	日本共産党議員団
14	全体	上越市内の「道の駅」が3か所あるが、地域活性化や特産品販売などの観点から、取組みを強化する	公明党
15	全体	林業の記述もあるが、まさに自然保護や水源涵養、ウッドショック、中山間地域の維持などの観点から、林業の活性化に本格的に取り組む	公明党
16	全体	IT産業や農業分野など、若者も含め創業や起業し易い環境整備の充実・支援を進める	公明党
17	全体	中国とは難しい局面にあるが、当市には直江津港からの大連等の航路もあり、友好に向けた改善も	公明党
18	全体	直江津港を中心に「北前船」つながり、そして世界遺産登録を目指す「小木・直江津航路」の活性化	公明党
19		別紙1で指摘したとおり、2040年から2030年にバックキャストिंगして考えるのではなく、2030年までの未来予測に基づいた計画として政策・施策を整理すべきと考える。	久比岐野